

れきしみち

2. 令和2年度の特別展の紹介【第1弾】「戦争に行くということ」
4. 令和2年度の特別展の紹介【第2弾】「家康と松平一族」
6. 連載「安城歴史散策 風を感じて歴史を歩く」
7. 連載「城址公園 万葉花ごよみ その一 一梅」
8. 安祥文化のさと会員のご案内、市民ギャラリーよりお知らせ

2020.1
No.115



安祥城址公園の梅



画：桜井純氏
「熱田空襲での女子挺身隊重傷者の救助」



上山城(山形県上市市)



Human face earthenware

特集：令和2年度の特別展の紹介



おとけさ古戦場跡・狐塚の碑



Narcissus



安城市
歴史博物館

Anjo city Museum of History

令和2年度

安祥文化のさと会員 大募集!

安城市歴史博物館は、令和3年2月に
開館30周年を迎えます!

今年度はこれを記念して、「開館30周年感謝キャンペーン」を実施。
2020年4月1日(水)～5月6日(水・祝)の期間中、ご入会いただくと、

※**年会費300円!**(通常500円)

ぜひこの機会にお待ちしています!

(※5月7日以降は通常の会費500円)

特典

歴史博物館や市民ギャラリーの
最新情報をお届け!

- 博物館情報誌「れきしみち」(年4回発行)
- 催し物案内(年2回発行)
- 歴史博物館の特別展および企画展のチラシ
- その他イベントチラシ(不定期)



入会について

[入会受付]4月1日(水)～

[受付場所]安城市歴史博物館

[申込み]当館窓口かお振込みの2通り
詳細はお問合せください。

ほかに、特典を
企画中にゃん!
楽しみに待ってて
にゃん♪



じんめんにゃん

安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー企画展
「心に響く風景画の魅力」



八島正明「はないちもんめ」

市民ギャラリーコレクションを中心に、
水墨画、日本画、洋画のなかから風景が
描かれた作品を展示。安城ゆかりの高須
芝山や現代作家の心象風景など、多様な
風景画の魅力をお楽しみください。

【開催期間】令和2年1/31(金)～2/15(土)

【時間】9:00～17:00

【休館日】月曜日

【観覧料】無料

市民ギャラリー企画展

「加藤博の表現 碧海の昔話と東海道五十三次」



加藤博「森の白い馬」

安城ゆかりの洋画家加藤博による、J A
あいち中央の広報誌に掲載された「碧海の
昔話」の挿絵原画に加え、安城市民ギャラ
リーが所蔵する「女人賛歌 東海道五十三
次」など、同氏が線描で生み出す独創的な
作品を一堂にご覧いただけます。

【開催期間】令和2年2/8(土)～2/29(土)

【時間】9:00～17:00

【休館日】月曜日

【観覧料】無料

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の
居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

【全館共通事項】

住 所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 改修工事のため休館中

開館時間 / AM9:00～PM5:00

TEL: 0566-77-6655 FAX: 0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / AM9:00～PM5:00

TEL: 0566-77-6853 FAX: 0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / AM9:00～PM5:00

TEL: 0566-77-4477 FAX: 0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / AM9:00～PM9:00

TEL: 0566-77-5070 FAX: 0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館
URL / <https://ansyobunka.jp/>

ただいま
準備中!

令和2年度の特別展の紹介【第1弾】

終戦75周年記念特別展

戦争に行くということ

会期 令和2年7月18日(土)～9月13日(日)

文責:田中里張

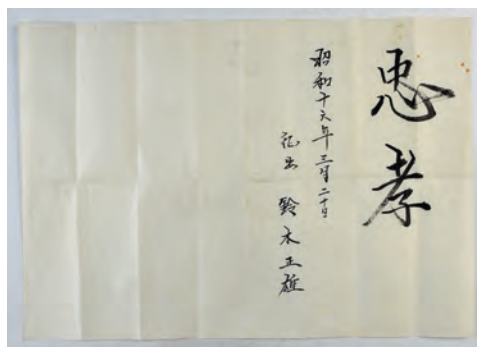
明治六年(一八七三)、近代的な軍隊整備を目指した明治政府により徴兵令が制定されると、一定の年齢に達した男子が兵士として訓練を受け、状況次第で戦場に送られる体制がつくられます。その後、昭和二十年(一九四五)に終戦を迎えるまでに、多くの人々が兵士となり、戦場に向かいました。

安城市域からも、召集・志願を問わず、多くの人々が出征しました。しかし終戦から七〇年以上が過ぎ、兵士として戦争を経験した人々の多くがこの世を去りました。それに伴い、当館には近年、彼らの遺品が数多く寄贈されるようになりました。これらの資料を見ると、「戦争に行く」と言っても、その配属先は多様で、中国や南方の戦地で戦った人もいれば、飛行機の整備兵となった人、内地で兵士の教育に携わった人、兵器の製造に携わった人などもあります。

今回の展覧会では、安城出身の将兵たちが体験した「戦争」とはどういうものだったのか、彼らが過ごした「戦場」とはどのようなものだったのか、彼らが遺した品々を通して紹介したいと考え、現在資料の調査を進めています。今回はそうした資料の一部を紹介します。

中国大陆で戦った兵士

写真の書は、昭和十六年に現役兵として召集された桜井町下谷出身の兵士が入営前に書き残したものです。これと前後して、父親には今まで育ててくれた礼を綴った手紙を、兄弟には父親のことを頼む手紙を残しています。

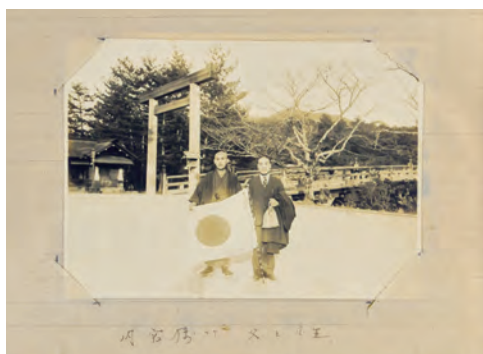


書「忠孝」
入営前の昭和16年3月20日に書かれたもの

闘と移動を目まぐるしく繰り返していました。彼が戦死したのは、そうした中の昭和十七年三月二十七日、入営してわずか一年余りのことでした。

彼は三月二十五日に敵根拠地(場所は伏字になっている)を攻撃すべく、重機関銃小隊長の伝令として出発、午前三時頃に始まった戦闘において右胸部と掌に銃弾を受けて死亡したといえます。

七月、軍から家族のもとに死亡通告が送られ、九月十六日に遺骨が故郷桜井に到着しました。そして十九日に村を挙げて葬儀が行われました。



生前父親とともに伊勢神宮を参拝した時の写真

航空機の整備に 携わった兵士



亡くなった時身につけていた軍帽

写真の軍帽は、安城町出身の兵士が戦死した時に身につけていたものです。

彼は昭和十四年に現役兵として歩兵第一八連隊に入隊、日中戦争に従軍しました。

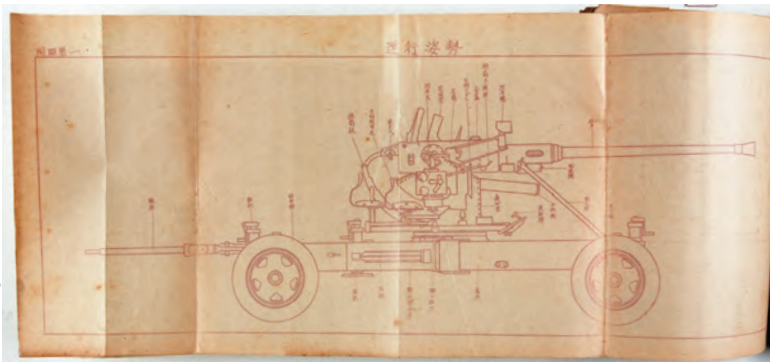
その後昭和十六年に航空兵科に転属、水戸陸軍飛行学校付になり、昭和十七年には所沢陸軍航空整備学校(埼玉県所沢市)に学生として入学しています。所沢陸軍航空整備学校は下士官や幹部候補生、少年飛行兵を対象とした航空機の整備教育を担っていました。ここで学んだ後、同校に転属、職員として学生への教育や生活の面倒をみる立場にあつたようです。

彼が亡くなったのは、昭和二十年七月三十日です。この日、アメリカ軍の戦闘機により関東地区の飛行場や鉄道・工場が攻撃され、所沢飛行場も機銃やロケット弾による攻撃を受けました。この時、飛行場の巡察中だった彼は、爆弾の破片を全身に受けたのです。終戦のわずか半月前のことでした。

兵器製造に携わった兵士

写真の資料は、小倉陸軍造兵廠(福岡県北九州市)に勤めていた花ノ木町出身の陸軍将校が所持していたものです。小倉陸軍造兵廠は陸軍の兵器製造工場の一つで、主に小型戦車や小銃、機関銃、高射機関砲・航空機関砲、砲弾などを製造していました。研究所もあり、兵器の改良・開発のための研究や試作、試験などを行っていたようです。

彼は技術将校として配属されました。具体的にどのような任務を負っていたのかはよくわかっていませんが、彼が所持していた資料には、高射機関砲に関する資料が残されていました。



『「ボ」式四十耗射機関砲説明書』の添付図



造兵彙報特別号
『ラ式機関銃製造技術に関する研究会記録』
「部外秘」と赤字で印刷されている。

終戦75周年記念企画展

「描かれた戦争－警察官が見た戦中戦後の愛知－」

会期 令和2年12月5日(土)～令和3年1月11日(月・祝)

文責:三島一信



熱田空襲での女子挺身隊重傷者の救助

夏の終戦七五周年記念特別展に引き続いて、十二月から来年の一月にかけて、内地の戦争の惨状を描いた回想画を展示します。

作者は桜井純(あつし)氏。桜井氏は終戦の年の昭和二十年(一九四五)五月に愛知県警察部警備隊第二大隊第二中隊に配属されました。すでに愛知県は頻繁に空襲にあつていて、桜井氏は名古屋や熱田、岡崎などで救助活動にあたりました。多くの惨状を間近で目撃し、晩年に回想画として残しました。戦争が終結した後はGHQの警護や取締に従事していて、混乱した当時の様子も描きました。現在、絵の内容を調査し、その中から展示すべき絵を厳選しています。



ただいま
準備中!

令和2年度の特別展の紹介【第2弾】

開館30周年記念特別展

家康と松平一族

会期 令和3年1月30日(土)～3月7日(日)

文責:野上真由美

上山城(山形県上山市)



紫系威二枚胴具足(個人蔵)

現在調査中!!

令和元年(二〇一九)十月七日・八日に山形県上山市の上山城に調査に出かけました。旧上山藩主であった藤井松平家は、三河国碧海郡藤井(市内藤井町)を出自としています。藤井松平家は、安城松平二代長忠の五男利長を祖とします。当館では平成二十四年に開催した特別展「安城ゆかりの大名 藤井松平家」で資料を借用しました。今回は家康の信頼が厚く、数多くの戦功を重ねた二代松平信一の肖像画や伝記類、藤井松平家ゆかりの武具など借用候補の資料の状態確認および撮影を行いました。



調査風景(松平文庫)

同じく十月十五日～十七日には、長崎県島原市の本光寺常盤歴史資料館と島原図書館内の肥前島原松平文庫に調査に出かけました。旧島原藩主であった深溝松平家は、三河国深溝(幸田町)を出自としています。本光寺常盤歴史資料館には深溝松平家ゆかりの歴史資料が、松平文庫には深溝松平家が歴代にわたり蒐集していた古典籍が数多く所蔵されています。本光寺常盤歴史資料館では深溝松平家ゆかりの古文書と絵図の調査を行いました。大型の絵図は、本堂をお借りして調査と撮影を行いました。松平文庫では、「御当家録」や「深溝世紀」などの古典籍や長篠図などの大型の絵図

安城市歴史博物館は、令和三年二月に開館三〇周年を迎えます。そこで、令和二年度には開館三〇周年を記念して特別展「家康と松平一族」を開催します。松平一族は松平郷(豊田市)を発祥の地としています。松平宗家三代信光以降、松平郷から勢力を拡大していく過程で、「十四松平」「十八松平」ともいわれるように三河の各地域に多数の家を分立させていきます。安城松平家は、文明八年(一四七六)以降に信光から安城城を譲り受けた親忠に始まったとされます。安城松平家二代長忠の頃には、没落した岩津の松平家に代わって惣領となりました。四代清康の時に岡崎へ移るまでの約五〇年間、安城城は松平宗家の本拠地でした。この清康はのちに江戸幕府を開いた徳川家康の祖父であり、安城松平家は徳川家の源流なのです。三河各地に分立した諸家の多くは譜代大名として徳川幕府の幕藩体制を支えました。当館では、これまでも安城ゆかりの大名を取り上げた特別展を行ってきました。今回はすべての松平一族を対象とした展示の予定です。松平ゆかりの資料から、一族の成立や諸家の分立、一族の発展、近世以降の譜代大名として幕藩体制を支える諸家の動向などを全国規模で紹介する予定です。

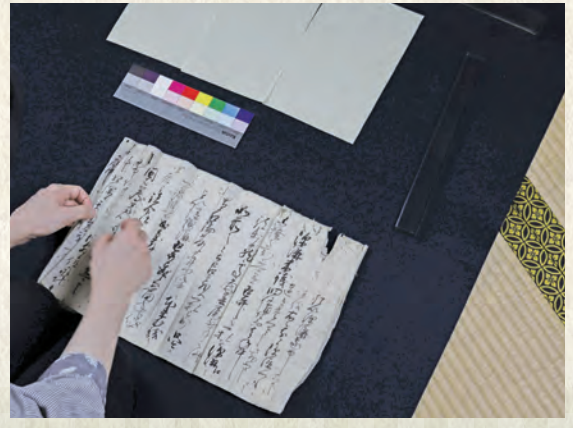
展示ができるまで

博物館の展示ができるまでには、さまざまな仕事があります。まず具体的なテーマを決め、調査研究を行います。次に展示資料とレイアウトを決定し、チラシやポスターなどを作成しPRを行い、図録を執筆します。展示の直前になると展示資料の解説を作成し、展示作業を行います。これら以外にも多くの仕事があり、開催初日を迎えます。博物館の展示は学芸員の汗と涙の結晶なのです。特別展では、当館所蔵の資料だけではなく他機関や個人の方から資料を借用します。展示のための調査研究や資料の状態を確認するためには現地調査を行う必要があります。資料調査は、まず所蔵者や所蔵機関の許可を取り、日程を決定し、実際に調査に出かけます。調査と同時に図録やチラシ・ポスターに使用する写真の撮影をする場合は、カメラやライトなどの撮影機材を一式持参していきます。機材は一四～一五kgにもなり、運び込んで設置するのはなかなか大変です。今回対象とする松平諸家の多くは近世以降、譜代大名として国替により、頻繁に領地が変更になった

ため、松平氏ゆかりの地や資料は全国にあります。今年度は、特別展開催に向けて松平諸家の資料を求めて全国各地で資料調査を実施しています。ここでは直近の資料調査の様子を報告します。



島原城(長崎県島原市)



調査風景(本光寺常盤歴史資料館)

の撮影をしました。大型の絵図は館の方々にもご協力いただき壁に吊って撮影をしました。照明を点けての撮影はライトが熱を持ったため、多くの資料の撮影を行う際には暑さとの闘いで苦勞します。

調査終了後は、撮影した膨大な画像の処理を行い、資料の内容を読み込み、研究を進めていきます。資料調査は、現地で行う作業も大事ですが、終了後の地道な作業が非常に重要になってきます。対象となる松平一族とそのゆかりの地は数多く、まだ調査をしなければならぬ資料や調査先は数多くあります。来年度の開催に向けて、今後も調査を進めていきます。

来年度の展示は松平一族ゆかりの資料を一堂に集めるこれまでにない展示となる予定です。ご期待ください。

風を感じて歴史を歩く

―丈山小学校区③―



おとけさ古戦場跡・狐塚の碑

丈山小学校区のシリーズの最後は、榎前町の歴史を歩きます。

おとけさ古戦場跡・狐塚

国道三号と問屋川の交わる所にひっそりと立つ碑があります。それが狐塚の碑であり、おとけさ古戦場跡と伝えられる場所です。四〇年程前の團場整備以後はその跡形もなく、田が広がっています。



5.5kmの長い道のり。交通量が多い場所もあるので気をつけて！

模は不明です。「明治村史」によると、箕輪城の城地は今の光明寺と、その西南に隣接する一帯の地で、明治初年頃まで、本堂の裏には外堀の跡が残っていたと言われています。箕輪城主は刈谷の水野氏に通じていたと伝えられています。松平氏と水野氏をめぐり、軍事的緊張状態があったことも考えられます。その、おとけさの古戦場跡を後にして、西進します。

集められた道標

えのき保育園の入り口付近に、四つの石造物が建っています。

安城にある石仏、四〇〇あまりのうちの三分の二には、道標と同様に地名や道案内の文字が刻まれています。市内には、石仏ではない道標は二〇基残っていますが、そのうち四基が榎前地内にあります。「明治村史」に、碧海郡役所は、各道の分岐点に交通指標を設置することを決め、明治二十年（一八九七）に、榎前村の四か所に建設したと記述されています。

道標は團場整備等で移設を余儀なくされ、昔の街道を示す役割を終えました。貴重な史跡が散逸するのを防ぐため、榎前町内会が二か所に集めて、大切に保存しているおかげで、かつて街道を歩いた人々の様子を感ずることが出来ます。



集められた道標（えのき保育園前）

三河万歳を絶やさない努力

榎前町内会事務所の隣に、三河万歳保存会練習場があります。

三河万歳の始まりを特定することは難しいですが、江戸時代には三

河の各地から関東二円を巡回していたことが史料から窺うことができます。安城市域においては、東西別所の万歳師たちが活躍していました。明治時代に入ると、伝承者が減少し、三河万歳は苦難の時代を迎えます。現在の安城の三河万歳保存会は、昭和四十二年（一九六七）に尾張系の御殿万歳・三曲万歳を伝承していた福釜町・榎前町の人々が母体となって設立されました。昭和四十五年、東西別所の万歳を伝承する若杉平正太夫より神道三河万歳の教えを受け、昭和四十七年には伝授書を授与され、名実ともに安城の三河万歳を伝承する団体となりました。

三河万歳の活動は、保存会の方々の献身的な活動に支えられています。各種イベントでの公演、市内の学校（小中高）での伝承育成指導を熱心に行っています。また、昨年度の安城の三河万歳後援会員の割を超える六〇名の榎前町民の熱い思いも、郷土が誇る大切な伝統文化を支えています。



榎前八剱神社、秋の大祭で奉納される三河万歳（令和元年10月26日撮影）

城址公園

万葉花ごよみ

その一―梅―

今回より新シリーズとして、安祥城址公園に咲く万葉集ゆかりの花や植物を紹介していきます。

昨年の五月より施行された新元号「令和」は、「万葉集」の文言から引用された元号として話題になりました。天平二年（七三〇）の正月、大宰府の長官大伴旅人の邸宅で開かれた梅花の宴。主催者の大伴旅人は、宴に参加していた人たちに梅花の花の歌を詠もうと誘います。

その宴の様子を綴った「梅花の歌三十二首」序文にある

時に、初春の今月にして、
気淑く風和らぎ、
梅は鏡前の粉を披き、
蘭は珮後の香を薫す

の一文より言葉を取り、新元号となりました。

万葉集において梅は萩に次いで多く詠まれた花です。当時の梅は白梅を詠んだものですが、ここ城址公園では見事な紅梅が、安祥公民館前にある「風呂井」の石碑近くで二月下旬より咲きはじめます。また、大乘寺前にも薄桃色の枝垂れ梅が三月より可憐に咲きます。

宴に参加していた山上憶良が、大伴旅人に誘われて詠んだ歌は・・・

春されば
まづ咲くやどの梅の花
ひとり見つつや
春日暮らさむ

「春になるとまず最初に咲く梅の花を、私は一人で見ても春の日を過ごすことなど、どうしてできようか・・・」という意味です。

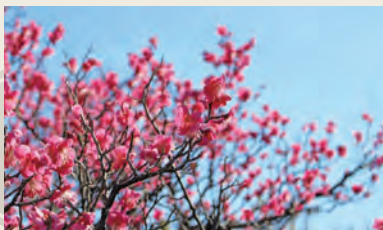
憶良の歌にあるように、春を告げる愛らしい梅の花をぜひご家族やご友人とともに城址公園へ見にお越しください。



「風呂井」近くの紅梅



大乘寺前の枝垂れ梅



安城市歴史博物館のご案内

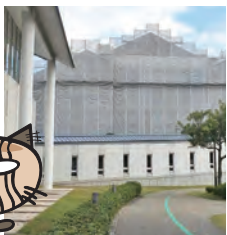
現在、安城市歴史博物館ではエントランスの天井や外壁の改修などを行っています。工事は順調に進んでいまして、令和2年4月1日より再始動します。

再始動に向けて、工事竣工記念イベントも企画していますので、4月からの開館を楽しみにしてください。

天井の照明がLEDになるにゃん



じんめんにゃん



現在の様子



安城市歴史博物館 エントランスホールのイメージ図